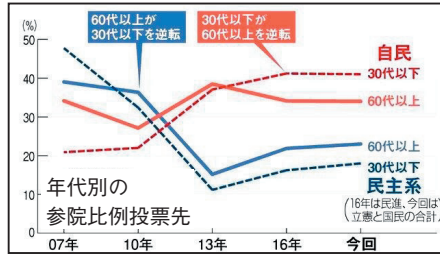


「戦争を知らない世代が政治の中枢と なったときはとても危ない」……田中角栄

ひとまず改憲に繋がる 議席は阻止された。しかし 青年層に自民支持が高く、「革新政党」への支持は高齢者である。将来に重大な警鐘を与えている。希望の一つが「れいわ」かも知れない。出口調査からみた「れいわ」と共産・社民への支持を比べてみた。



資料は一般紙より

比例区で3党に投票したのは… 無回答は省略

れいわ	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
2	10	18	29	20	12	8	
共産	4	7	13	15	24	36	
社民	4	6	11	16	26	36	

今回の選挙、改憲派が2/3を割ったこと、山本太郎率いる「れいわ新選組」が強烈に登場したこと、低投票率だったことなどが特徴。(周)

今月の秀句

選挙戦れいわが放った矢の一閃 周立東爺  
 十八才無垢な一票浮遊する 遠田亀公子  
 無関心の壁にドリルを刺すれいわ 寺内徹乗  
 モリカケも喉元過ぎた過半数 寺内徹乗

例会案内

8月例会 8月22日(木)  
 投稿締切 19日(月)  
 課題「火」 3句以内  
 自由吟 5句以内  
 自選句、自解筆もぜひよろしく。

◆目次

川柳互選	2
課題吟「選」	2
自由吟	3
自選句	4
連作・自選句・おたより	5
ほのぼの川柳(休み)	5
東京鶴彬建碑趣意書	7
プロレタリア文学の盲点⑨	10
従軍作家・林芙美子(2)	10
シベリア抑留の記録⑩	12
故・秋山茂氏の手記	12
編集後記を兼ねて	16

# 7月の 川柳互選

新しい選考基準で選ばれました。作者名下の数字など基準の解説は4頁にあります。

## ◆ 課題吟 「選」

(互選) 一人3句以内吐

句を選ぶ若者たちにわかるかな	一角	権力を持ちたい人を選別す	白眞弓 4
共闘の心が選ぶ次の折	一角	#Me Tooで本音あふれる参院選	白眞弓 4
1 死の場所を選ぶ人生最終章	白眞弓 1	選ばれたのがヒト科とは思えない	ダン吉 3
1 改憲は選挙結果で 示せたが	広助 1	じくじたる思いをぶつけ人選び	一角 3
1 参院選 市民・野党 一步前進	宏 1	共闘の時代を告げる参院選	林 2
2 選びたい 党と人だけ 何故延びぬ	宏 2	付度を売り物にする「選良」	林 3
2 選びたくない 人と党何故 当確か	宏 2	6 厳選と言われ結果がこれですか	ダン吉 5
3 無党派の握る選挙に誰がした	亀公子 3	6 マスコミも辺野古に触れぬ選挙戦	未知子 5
3 選挙戦嫌韓煽るせい技	徹乗 4	7 選挙後に議場リフォーム大あわて	立東爺 3
3 参院選れい新と維新何時代	広助 3	7 原発も辺野古も避ける選挙戦	亀公子 4
3 選ぶ人選ばれる人との勘違い	立東爺 2	8 平和唱え選んだ道が核兵器	ダン吉 4
3 選挙で改憲発議弱くなり	和子 2	9 風よ吹け安倍の悪夢にピリオドを	徹乗 6
4 安定か混迷か！混迷してる自覚なし	徹乗 3	9 壁崩す新選組に希望の芽	未知子 4
		10 選ばれる野党共闘民が待つ	広助 6
		11 戦犯の孫が選んだ嘘の道	林 5
		13 選挙戦れいわが放った矢の一閃	立東爺 5
		13 十八才無垢な一票浮遊する	亀公子 7

◆自由吟 (互選)

一人5句以内吐

3	メディアお前もか沖縄無視はあんまりだ	未知子	3	先進国不戦を誓った国のはず	未知子3
3	マスコミは五輪煽る無責任	広助	3	年金の マクロスライド 即中止!	宏3
3	竹島は固有の領土遠吠えだ	一角	3	太郎の幟負けても勝った大凱旋	立東爺2
1	「丸木舟」 歴史ロマンの手漕ぎかな	宏	3	改憲が少し遠のく七月二十一日	白真弓3
1	批判浴び少し人間らしくなる	ダン吉1	4	無関心投票棄権 付けが待つ	広助3
1	街宣は廉価の派遣で安倍ヨイショ	白真弓1	4	鼻を突く法螺と媚態の安倍政治	未知子3
1	まず自分クビにしてから皆にいえ	一角1	4	五輪です災害地震置き去りに	広助3
1	投票率下がってよろこぶ自慢党	未知子1	5	2000年従属強いる基地づくり	林3
2	共闘は日本の今日を切り拓く	一角1	5	改憲のアクセル強く踏む無謀	林4
2	テナントの名ばかり店長帰れない	一角2	5	オイコラが寄つてたかつて力づく	林3
2	自公維に三分の二で待ったかけ	広助2	5	あかななあ助走で疲れ果てている	ダン吉2
2	人間を休みたい時ないですか	ダン吉2	5	断食で増税危機を乗り切るぞ	白真弓3
3	増税を 民意中止を 声高く	宏2	5	棄権こそ国を亡ぼす危険あり	白真弓3
3	吉本の膿が噴き出すブラックショー	立東爺3	5	子のために使え辺野古の二兆円	徹乗4
3	トランプのペットになって民に付け	広助3	5	民意聴け 地上アショアは 必要か	宏4
			5	チーム安倍いつも空虚なアドバルーン	亀公子4
			5	棄権票その後の悲惨誰が知る	立東爺5
			6	手を取って歴史に学べ日韓で	未知子2

6	道拓く国会乗り込む車椅子	立東爺 3
6	九条の国の政府の血なまぐさ	林 3
6	風化する戦後日本の忠魂碑	亀公子 4
6	大同のわが一票を死なせない	白眞弓 6
7	二千万と言われ萎んでいく市場	徹乗 3
7	青臭い話と言うが正論だ	ダン吉 3
7	憲法の道切り開く共闘	林 4
7	大論戦逃げる太郎と刺す太郎	立東爺 4
7	戦場の夢にうなされ父寝てる	一角 4
7	アベ与党 軍機爆買 前のめり	宏 5
8	改憲へ病的執念まだ健在	徹乗 5
9	風を読み怯んだ僕をじつと見る	ダン吉 4
11	ヤジ警護不吉な明日がにじり寄る	亀公子 5
12	アクセルを踏み間違える右の足	亀公子 5
12	改憲の地雷を踏めという国に	亀公子 6
13	無関心の壁にドリルを刺すれいわ	徹乗 5
13	モリカケも喉元過ぎた過半数	徹乗 5

## 七月選考、結果の説明と解説

天(3点)、地(2点)、人(1点)とし、課題はそれぞれ、3句、5句、10句以内、自由句はそれぞれ5句、8句、20句以内として選んで頂きました。

こうした変更は、これまで句数に制限を設けていなかったため、多い人は全体の9割近い数を選んでいたこともありました。「良い句」には点数を多くすることで、慎重に選句していただく為でした。

数字の説明をしますと、数字は合計点数。作者下の数字は、選考者の数(前回までの点数と同じ)です。集計は大変面倒でした(笑)

選考結果では、微妙に変化が現れました。選者が少なくても高得点、選者が多くても少得点ということと色々考えさせられました。これをどう評価するか、句の観賞や研究のためにご検討いただければ幸いです。天・地・人それぞれ各一句の方もおられました。なお、選句の注意事項として「自分の句は選ばない」としていたので、選んでいた方の点は「無効」として計算してありません。(編集子)

ほのぼの川柳はお休みです。

## 連作・自選句集

### ◆連作「夜間中学」 馬頭琴（名古屋）

夜間中学灯りに集うお年寄り  
夜中生今が幸せと目を輝かせ  
生きること 学ぶことと夜中生  
夜中生 土日の学びも願いつつ

### ◆自選句 中野林

六年余かけて築いた欺瞞の世  
悪政の六年半のツケ溢れ  
改憲で世界を駆ける自衛隊  
品のない自作自演のラフプレイ  
狂犬のように吠えてる血の同盟  
年金とともに減り行く我が安心  
「不公平」言うトランプの尊大さ

### ◆連作「選挙2019」 周立東爺

一強を崩す一矢を放つ票  
若者を取り込む仕掛けに舞い踊る  
壁崩す蟻の一穴れいわの矢  
結果受け改憲方針朦朧す  
改憲の号令助走に切り替える  
野党にもれいわ激震突き刺さる

## おたより

### ◆おたより 岩佐ダン吉さんから（大阪）

あかつき川柳会は七月二五日「同人総会」。全国25都道府県の同人、さらに金沢「和川柳社」をはじめ9の顕彰会と川柳社、さらに川柳コーナーや教室、選評に場の共同している17の各種団体やマスコミ関係に案内を。

さて、9月13日、翌月の碑前祭を前の記念句会では「鶴彬と父」を演題に眞殿天童（国賠同盟大阪）さんがお



東京に鶴彬の顕彰碑を！

つるあきら  
鶴彬建碑趣意書

現在私たちが受け継いでいる「川柳」という文芸は、二百五十年ほど前の江戸中期、上方文化の影響から脱し独自の江戸文化が築かれた時期に誕生しました。当時世界でも屈指の百万都市であった江戸の気風を迎えられ、それまでの俳諧とは異なった都市文芸、庶民文芸としての発展を見せ、人間や社会を映すコトバの鏡として多くの作品を生んできました。川柳を通じて、それぞれの時代や風俗、人間の価値観などを知ることができるのはそのためです。

かつて、日本が戦争に向かった時代があります。ほとんどの国民は、国家の目的に沿って、戦争という大義をうのみに、我慢の日をおくりました。そんな時、

エノケンの笑ひにつづく暗い明日 鶴彬（『大卒』昭和十二年五月）

と、迫りくる国家の不安を予見した句を生んだのは、二〇〇九年、生誕百年を控え、映画「鶴彬 こころの軌跡」の主人公として描かれた鶴彬でした。彼は、厳しい治安維持法のもと、革新的な日本社会の中で「反戦」ということを書え続け、ついに特高警察に捕らえられ、中野の野方寮に収監中、赤痢に罹患病状悪化によって東京市立豊多摩病院に移送され、一九三八年（昭和十三年）二十九才という若い命を落としました。

星のみないニュース映画で選ばし  
手と足をいだ丸太にしてかへし  
船内の動き知るこゝろ骨がつき

（川柳人）昭和十二年十一月）

これらの川柳は反戦と平和への、命を懸けた叫びでありました。鶴彬を部ぶ句碑は、郷里の石川根、墓所のある岩手県、徴兵中に収監された大原府の三か所に建立されています。私たちは、戦争という時代に鑑みられ、命を失った青年を偲び、未来の平和を考えるモニュメントを最後の活動の場であった東京・秋高の地である新宿区北新宿「旧豊多摩病院」跡地近くに建立すべく、川柳と市民運動関係者を中心に「東京鶴彬顕彰会」を立ち上げました。

新宿区は、昭和六十一年に「戦争の惨禍を人々に訴えるときに、永遠の平和を築き、次の世代に引き継ぐ責務がある」と平和宣言を行いました。空襲にあった樹木や戦災者を供養する観音堂が、また戦争を遂行した大本営陸軍部の軍事通達など、新宿区には戦いの時代に引き継ぐべき貴重な史跡が数多く存在しています。鶴彬の句碑は、戦争に抵抗した人々を代表する「貴重な史跡」となることでしよう。現在、歴史遊行の動きがあるなか、その意味はさらに深いものになると思います。

句碑実現に向け、ご賛同・ご協力・お力添えをいただきたくお願い申し上げます。

二〇一三年（平成二十五）十一月  
東京鶴彬顕彰会世話人代表 鶴彬 竹 扇（東京あかつき協会会長）  
阿 部 俊 雄（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟新宿支部）



9/15、16、鶴彬の墓前祭への参加

◆おたより 乱鬼龍さんより（東京）  
このたびの「石」の件、たいへんお世話になります。

話。眞殿さんの父・久治さんは鶴彬の一年前に兵庫  
県生まれ。治安維持法の犠牲者として、どんな話が…、  
期待しています。

も兼ねて東京から、有志を誘いあつて伺いたいと  
思っております。そのとき、「石」もぜひ、見せて頂き、  
いろいろと協議したいと思います。お手数をおかけ  
しますが、よろし  
くお願い致します。  
(7/21)



かほく市白尾にある巨石群。この中から決まれば、鶴彬の生誕地と終焉地が繋がりますね。管理するかほく市の管財課と話合っています。

「鶴彬を顕彰する会」の板坂さんから、資料提供いただきました。

東京に鶴彬の顕彰碑を

## 鶴彬建碑趣意書

現在私たちが受け継いでいる「川柳」という文芸は、二百五十年ほど前の江戸中期、上方文化の影響から脱し独自の江戸文化が築かれた時期に誕生しました。当時世界でも屈指の百万都市であった江戸の気風に迎えられ、それまでの俳諧とは異なった都市文芸、庶民文芸としての発展を見せ、人間や社会を映すコトバの鏡として多くの作品を生んできました。川柳を通じて、それぞれの時代や風俗、人間の価値観などを知ることができるのはそのためです。

かつて、日本が戦争に向かった時代があります。ほとんどの国民は、国家の目的に沿って、戦争という大義をうのみに、我慢の日々をおくりました。そんな時、

エノケンの笑ひにつづく暗い明日 鶴彬（「火華」昭和十二年五月）

と、迫りくる国家の不安を予見した句を生んだのは、二〇〇九年、生誕百年を迎え、映画「鶴彬 ころの軌跡」の主人公として描かれた鶴彬でした。

彼は、厳しい治安維持法のもと、翼賛的な日本社会の中で「反戦」ということを訴え続け、ついには特高警察に捕らえられ、中野の野方署に収監中、赤痢に罹患病状悪化によって東京市立豊多摩病院に移送され、一九二八年（昭和十三年）二十九才という若い命を落としました。

屍のみなないニュース映働で勇ましい

手と足をもいだ丸太にしてかへし

胎内の動き知るころ骨がつき （「川柳人」昭和十二年十一月）

これらの川柳は反戦と平和への、命を懸けた叫びでありました。鶴彬を偲ぶ句碑は、郷里の石川県、墓所のある岩手県、徴兵中に収監された大阪府の三か所に建立されています。私たちは、戦争という時代に翻弄され、命を失った青年を偲び、未来の平和を考えるモニュメントを最後の活動の場であった東京・終焉の地である新宿区北新宿「旧豊多摩病院」跡地近くに建立すべく、川柳と市民運動関係者を中心に「東京鶴彬顕彰会」を立ち上げました。

新宿区は、昭和六十一年に「戦争の惨禍を人々に訴えるとともに、永遠の平和を築き、この緑の地球を、次の世代に引き継ぐ責務がある」と平和都市宣言を行いました。空襲にあった樹木や戦災者を供養する観音像が、また戦争を遂行した大本営陸軍部の軍事遺跡など、新宿区には次の世代に引き継ぐべき貴重な史跡が数多く存在しています。鶴彬の句碑は、戦争に抵抗した人々を代表する「貴重な史跡」となることでしょう。現在、歴史逆行の動きがあるなか、その意味はさらに深いものになると思います。

句碑実現に向け、ご賛同・ご協力・お力添えをいただきたくお願い申し上げます。

二〇一三年（平成二十五年）十一月

東京鶴彬顕彰会世話人代表 植竹団扇（東京あかつき忌会会長）

安部俊雄（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟新宿支部）

## 鶴彬建碑の呼びかけ人一覧

## ◆呼びかけ人

- 蒔 昭三(金沢市・元民医連会長・城北病院名誉院長)  
 阿部 俊雄(国賠同盟新宿支部)  
 池辺晋一郎(作曲家)  
 伊藤 哲子(稲門連句会俳諧「西北の風」会長)  
 岩佐ダン吉(岸和田川柳会代表全日本川柳協会幹事)  
 岩垂 弘(ジャーナリスト)  
 植竹 団扇(川柳家)  
 梅津 弘子(年金者組合旭支部副委員長)  
 太田紀伊子(全日本川柳協会常任理事)  
 岡田 一杜(「和」川柳社主宰 故人)  
 城戸 寿子(鶴彬姪)  
 木津川 計(「上方芸能」発行人)  
 木村 まき(横浜事件国賠原告)  
 棚沢 健(文芸評論家)  
 神山征二郎(映画監督)  
 佐高 信(評論家)  
 佐藤 岳俊(岩手県川柳連盟理事長・川柳人社)  
 佐藤喜美子(国賠同盟)  
 島村美津子(あかつき川柳社)  
 瀬尾 英幸(護憲ネットワーク北海道共同代表)  
 高鶴 礼子(川柳作家「ノエマン・エシス」主宰)  
 儀 義文(こどもと教科書全国ネット21)  
 角島 広治(鶴彬を顕彰する会事務局)  
 中嶋 育雄(国賠同盟東京都本部)  
 西田 勝(文芸評論家)

長谷川順一(元新宿区議会議員)  
速川 美竹(川柳レモンの会・九品仏川柳会代表)

浜林 正夫(二橋大学名誉教授)

平野 寛(映画「鶴彬こころの軌跡」プロデューサー)

飛矢崎雅也(明治大学助教)

尾藤 一泉(川柳家)

藤原 麗子(日朝協会群馬県支部・国賠同盟)

三上 満(全国革新懇代表世話人)

山本 隆造(国賠同盟新宿支部)

乱 鬼龍(レイバーネット川柳班)

わかち 愛(詩と朗読「たぎびの会」主宰)

笑 い茸(レイバーネット川柳班)

## ◆賛同人

天根 夢草(川柳展望社)

壹花 花(風刺漫画家)

佐藤 岩雄(川柳宮城野社同人・川マガ仙句会世話人)

田島 貞雄(東京民医連OB「年輪川柳の会」世話人)

永井 天晴(川柳やまびこ)

服部 迪夫(時事川柳研究会会長)

古田 武(文化活動家)

宮本 亨一(大阪市大名誉教授)

森村 実花(あかつき川柳会副会長)

八木 知彦(年金者組合杉並支部)

山田こいし(川柳家)

第一次々切 二〇一四年(平成二六年)三月現在

## ◆呼びかけ人

上野 楽生(川柳楽生会主宰)

大田かつら(川柳くれない主宰)

小山 広助(鶴彬を顕彰する会事務局長)

北出 北朗(川柳家)

喜多 義教(鶴彬朗)

紺野 君子(国賠同盟中央副会長)

平 宗星(文学博士・東京川柳会副主宰)

長嶋 剛一(東京私教連退職教職員会)

長谷 久人(鶴彬を顕彰する会会長)

永田 浩三(武蔵大学教授)

藤田 廣登(国賠同盟)

松元 ヒロ(コメディアン)

森村 誠一(作家)

山田 裕一(鶴彬甥)

## ◆賛同人

井口 武久(鶴彬を顕彰する会)

岩原 茂明(鶴彬を顕彰する会)

板坂 洋介(鶴彬を顕彰する会)

遠田 勝良(鶴彬を顕彰する会)

笠島 和夫(鶴彬を顕彰する会)

高橋 成典(鶴彬を顕彰する会)

竹田 求(鶴彬を顕彰する会)

寺内 徹乘(鶴彬を顕彰する会)

平野 道雄(鶴彬を顕彰する会)

松尾 正壽(鶴彬を顕彰する会幹事)

綿貫 洋一(年金者組合新宿支部)

第二次々切 二〇一五年(平成二七年)六月現在



プロレタリア文学運動の盲点 ⑨

従軍作家・林芙美子(2)

周 立東爺

前回、林芙美子の後半生を描いた井上ひさしの戯曲「太鼓たたいて笛ふいて」を紹介した。井上ひさしは戦争賛美作家・林芙美子を戦地で現実を見てから反戦へ変わった作家として評価し戯曲に仕上げた。



2002年7月初演された戯曲。こまつ座：主演・大竹しのぶ

確かに、あの時代、歴史に無知であれば、作家としても哀れな国民同様だったのかもしれない。

林芙美子自身がこの戦争の誤りと自身の責任をどう語っているか、いろいろ調べているのだが、なかなか見あたらない。井上ひさしの「太鼓たたいて笛ふいて」の台詞から芙美子の思いを知ろうと思う。

「太鼓たたいて笛ふいて」の台詞から

林芙美子が監視対象にされ執筆が禁止された事件がある。台詞では次のように書かれている。(三木は文化関係者から内閣情報局へ登用された人物、こま子、四郎は知人)

.....

三木 一週間前、このあたり五カ村の国防婦人会の集まりで、先生はとんでもない発言をしてしまったんです。「こうなったらキレイに負けるしかないでしょう」とね。

こま子 キレイに負けるしかない……？

四郎 (胸ポケットから手帖を出しながら) 正確にはこうだな。(読む) ……、「一作昨年から一昨年にかけての八カ月間、私は内閣情報局と陸軍省から派遣されて、シンガポールやジャワやボルネオなどが国が占領した大東亜の東南部一帯をくわしく見てまいりました。その目で見ると、もうどんなことをしても、今度の戦に勝つ見込みはありません。こうなったらキレイに負けるしかないでしょう。しかし、この国を上から下まで見渡しても、キレイに負けることが出来るだけの器量と度量を備えた人間はいないようです」……。

こま子 ……なんてまあ、思いきったことを。

(中略 芙美子の懺悔の台詞。)

芙美子 (絞り出すような声で) ……太鼓たたいて笛ふいてお広目屋よろしくふれてまわっていた物語が、はつきりウソとわかったとき、……生命を断つしか

ないと思った。わたしの笛や太鼓で踊らされた読者に申しわけがなくてね。……ボルネオからの帰りの飛行機の中では、なんども、このままアメリカの戦闘機に撃ち落とされたいと祈った……。

芙美子 ……けれど死ぬのはやつぱり怖い。飛行機よ落ちろと祈るそばから、無事に帰れたら塩を断ちます砂糖も断ちますと神仏に手を合わせていた。帰つてすぐ池袋の産院へかけこんで、生後四日目の赤ちゃんを養子にもらったのも、この子のために死ぬのだけはよそうという……そう、子どもの命で自分の命に歯止めをかけたのよ。……わたし、卑怯ですね。

こま子 わたしにも、疑問があります。さきほどの、本土決戦で最後の一人まで戦うというお考え、とてもおかしいですよ。

四郎 どこがおかしい！

こま子 日本人が一人もいなくなったら、日本という国もなくなってしまうですよ。

四郎 ……あんたも日本が嫌いなんだな。

こま子 いいえ、日本が好きです。

芙美子 そう、滅びるにはこの日本、あまりに美しすぎるわ。

(終戦。昭和21年12月の台詞。)

芙美子 ……責任なんか取れやしないとわかってるけど、他人の家へ上がり込んで自分の我がままを押し通そうとするのを太鼓でたたえたわたし、自分たちだけで世界の地図を勝手に塗り替えようとするのを笛で囃した林芙美子……、その笛と太鼓で戦争未亡人が出た、復員兵が出た、戦災孤児が出た。だから書かなきゃならないの、この腕が折れるまで、この心臓が裂け切れるまで。その人たちの悔しさを、その人たちにせめてものお詫びをするために……。

### 作家自身の戦争責任

林芙美子の従軍記初の『戦線』には何度も「私は兵隊が好きだ。」と書き、中国兵の死体を見た様子を次

の様を書く。

「まるでぼろのような感じの死骸でした。こんな死体を見て、不思議に何の感傷もないと言うことはどうした事なのでしょう。これは今度戦線に出て、私にとつては大きな宿題の一つです。違った民族というものは、こんなにも冷たい気持ちになれるものでしょうか。」(『戦線』中公文庫31頁)

こうした《太鼓たたいて笛ふいた》作品群と、井上ひさし描く林芙美子の姿の相違は現在の目から見るとすぐに理解しがたいが、当時の文化人がこぞつて戦争に協力し、戦後、自身の戦争責任を見つめ発言した作家より、過去を意識的に忘却の彼方へ押し込めた作家の方が多かったのではないか。ペン部隊に参加した作家達、作品そのものの評価と人間性の乖離を見せつけられる昨今である。

高橋隆治の次の文章を再確認したい。

「……あの戦争を侵略戦だと知らなかったとは、戦

前、戦中世代のだけれども口にする言葉だが、それは「知らなかった」のではなく、「知ろうとしなかった」だけである。私は何度でもくりかえすが、「知ろうとしない」ことはかくも重大な結果を招くものなのである。もっとも、日本のプロレタリア文学は、小作争議や労働争議をテーマにしたものがほとんどで、反軍・反戦を主題にした作品は意外なほど少数だし、ストリートに反戦に結びつくプロレタリア文学はこの時期にはもやはまったく影をひそめてしまっている。なぜなら、十五年戦争は『蟹工船』が売られていた昭和十五年よりも九年も前に開始されているからである。つまり反戦・反軍を直接の主題とした小説が書かれるとしたら、もっと以前、プロレタリア文学最盛期の昭和四、五年でなければ遅すぎたのである。」

(高橋隆治『戦時下文学の周辺』風媒社165頁)

## シベリア抑留の記録

10

「在ソ三年 生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の遺稿より

前回までのあらすじ

マリタの森林作業と隊内での下克上生活の中、空腹での争いも起きる。鉄拳をふるうボスらに「俺は一人悪者になっても構わんから彼等の行動を中止させなければならぬ」と決意。銃剣道三段。このグループから出ることになった。

### 伐採中、意識を失う

私は仕方なく中隊の主力が入っている大きなセムミヤンカに移ったが、この事があってから隊長以下親しかった連中までが内心はともかく表面的には私をさげよとする空気が強くなった。というのは彼等ボス達に睨まれるのを怖れたのである。

どちらを見ても白一色の異国の山奥で誰にも相手

にされない寂しさ辛さに私は、心の中で慟哭し続け、満州で別れた妻子や故郷の老いた両親から村の氏神様などが次々を走馬燈のように私の中を駆けめぐっては消へた。

ただ「俺は正しいことをしてみんなの危急を救った」という僅かの慰めで生き、毎日々々白樺の森林で伐採を続けていた私は夫れからしばらくして過労と栄養失調のため伐採中斃れて意識を失い、ふと気が付いた時はゼムリアンカの中に寝かされていた。ソ連軍中隊長がぎざみ煙草（マホルカ）一包を持って見舞いにに來たが無理が祟ったのか仲々快方に向かわず、そろそろ若葉がもえはじめた五月二十三日、他の三、四名の患者と共にトラックで後送されイルクック郊外の大隊本部の医務室に入る事になった。出発に当たって苦薬を共にした旧分隊員などと別れるのは一寸寂しかったが、今の私はこの重苦しく厭な空気が抜け出せるということが寂しさ以上に嬉しかった。

私が入室した時、薬や医療機器こそないが何くれと面倒を見て呉れた人は、終戦前満鉄本溪湖病院の内科部長だったという北村軍医だった。

私とは年令が同じ位であったため何かと打ちとけて話し合っていたが、残念なことに北村軍医はわれわれのダモイ列車がハバロスクに着く前に車中で病死したことをナホトカに着いてから聞いた。

## 第九章 待望のダモイ

私が下山し本部医務室に収容されてから半月余り経った若葉がもえたち雑草も顔を出した頃、伐採を了えた中西中隊がマリタから戻り直ちに製材所の建築作業に掛かったが下山した誰彼なくひどい栄養失調で、歩哨の目を盗んで馬鈴薯掘りに出る者など後を絶たなかったが、ソ連兵も割合寛容な態度であった。

私も病室から原隊に復帰したものの旧い分隊員以外とは何か気まずいものが残っているようであった。われわれの隊が伐採に行つての留守中残った中隊は殆ん



ど土工作業であつたらしいが、かつての伐採地程のやつれはなかつた。政治将校の教育が効を奏したのか拾名余りのアクチーブ（左翼思想のグループ）の連中が以前とは見違えるように活発な活動をするばかりでなく、隊内で幅を利かしているのには驚かさされた。然し一般の隊員でこれに同調する者はなく「解放」とか「民主化」などという言葉に無関心を装っていたのは年齢的に奉天の市民など中年の者が多かつたからでアクチーブの連中は浮かび上がつて踊つているように見へた。

その年も亦、秋の気配が感じられるようになった。「何時になつたら帰国できるのだろうか？」

誰の顔にも不安と焦燥の色が日毎に濃くなつた十月七日の早朝、ふだんはこんなに早く顔を見せたことのないソ連の中隊長がいきなり「各人装具を持つて全員表に整列せよ」と命じた。

「又、伐採だろうか？」と不安気に整列している処へ中佐の肩章を付けた大隊長や、政治将校が来て、

何やら話し合つていたと思つと、「只今から名前を呼ばれた者は前に出よ」という。われわれの不安はいよいよ不気味なものとなる。兎か吉か。中隊長はおぼつかない日本語でゆつくり名前を読み上げ、一人確認しては又読み上げる。私も呼びあげられたので前に出た。

### 帰還への望みと不安

振り返つて見れば某曹長に山野、唐沢といったグループやマリタの山中で将校に暴力を振つた柔道六段の塚本軍曹など、三分の一人の人達が残つており、みんな不安そうに互いに顔を見合つていた。

やがて中隊長が「名前を呼ばれ前に出た者は、ダメイである」と告げられた瞬間、急にざわざわと色めき立つた空気が流れたが直ぐ又元の静けさにかえつた。

われわれはソ連兵により五十米余り東の草原に誘導され二列横隊で前後の距離五歩、左右の間隔三步

にひらいた隊形で大隊長の綿密な服装検査と装具点検を受けた。

日本新聞をはじめ、文字の書いてあるものは一切携行が許されず、在ソ中に苦心して作った木製品（スプーン、麻雀、将棋など）もすべて没収され、私は時折り書き綴った日記を取り上げられたが残念に思うより帰還の喜びの方が遙かに大きかった。

他方、残留となった人達は、私達が閲兵でも受けるように前後からソ連軍将校の服装検査を受けている時、警備兵に付き添われて何処かに行った模様だが、行き先は警備兵の言葉では「北の方の鉾山だろう」ということであった。しかし真偽のほどは判らない。私達は気の毒にソ連残留となった人達と言葉を交わすことも出来ずに別れたが再び襲い来る冬將軍を前に「唯生きて」と祈る気持ちだけであった。

これより四、五日前の午後、私はまたもやゲペウ将校に呼ばれ収容所の一室で簡単な取り調べを受けたが其の時、私が入ソした当時の歯型が明確に記録してあ

るのには驚いた。

件の中尉はその記録を見ながら、

「あなたには奥歯の下の左右に二本宛金歯があった筈だが……」

「その通りだ。然し金歯は黒パンと代えた」

「ソ同盟で金の売買は禁じられているが、知っているか」

「知らない」

「パンと代えたのは何時何処か」

「日時は記憶していないが確か一昨年パシキーと昨年マリタの伐採地だったと思う」

「相手は」

「ソ連の地方人だ」

「名前は」

「知らない」

「顔を見れば判るか」

「判らない」

(次回に続く)

## 編集後記を兼ねて

◆今回の選句では基準を変えたことで集計が大変でしたが、前回基準と比較するとなかなか意味深でしたね。◆選挙のこと。ともかく安部政権の改憲は阻止された。しかし窓口調査を見ると安閑とはしておられない。野党への投票は高齢者に多く、田中角栄の警告が現実味を帯びてくる。「戦争を知っている世代が政治の中枢にいるうちは心配ない。だが戦争を知らない世代が政治の中枢となったとき

## 8月例会「案内」(毎月第4木曜に変更!)

- ◆例会 8月22日(木) ◆投稿×切:19日(月)
- ◆課題 「火」 3句以内 ◆自由吟:5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
- ◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は  
下段住所へ。

はとても危ない」◆新政党「れいわ新選組」の登場が強烈だった。山本太郎が率いて街頭演説は熱狂的な数の聴衆。「消費税廃止、税金はあるところから取れ、ないところから取るな」。累進課税を分かりやすく訴える。◆「石を東京に贈りたい」の話。かほく市が管理している白尾の巨石群ですが近々、専門家に見てもらいます。◆「東京鶴彬顕彰会」がよびかけた「鶴彬建碑趣意書」を「鶴彬を顕彰する会」の板坂さんから頂きましたので紹介しました。(周)

「和川柳社」会報  
会員募集しています!

同人:4000円/年  
投句/購読:2000円/年  
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30 (渡辺 寛)

電話 FAX:076-254-0762 PC-mail:kananabe@popolo.org

携帯:090-9445-1302 携帯 mail:kan-wata@i.softbank.jp

振込先:北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」